

団体名		一般財団法人武蔵野市給食・食育振興財団						
①	指 標 名	給食・食育「フェスタ」来場者の前年度比増			目 標 値	平成26年度比増	実 績 値	(フェスタ) 302
	過 去 の 実 績	平成24年度	平成25年度	平成26年度	達 成 率	76.6%	達 成 状 況	未実施・ <b>未達成</b> ・達成
	(単位: 人)	(フェスタ) 202	(フェスタ) 239	(フェスタ) 394				
	取 組 内 容	給食・食育フェスタは、平成26年度は、夏休みの始め7月下旬に実施したが、平成27年度は、夏休み後半の8月下旬に実施日を設定した。魚のさばき方教室で使った魚を、その後の調理実習で使うなどして、食材の流れが見えるようなプログラムにした。						
	一 次 評 価	体験型イベントである給食・食育フェスタは、児童・生徒から大人まで幅広い年代層の参加を得て、定着しつつある。						
二 次 評 価	参加人数が目標値に達することができなかったが、原因を分析の上実施時期やイベント内容を精査し、より有益なイベント実施を期待する。							
②	指 標 名	学校給食提供コストの前年度比減			目 標 値	平成26年度比減	実 績 値	508
	過 去 の 実 績	平成24年度	平成25年度	平成26年度	達 成 率	100.8%	達 成 状 況	未実施・未達成・ <b>達成</b>
	(単位: 円)	527	521	512				
	取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約等の見直しによる物件費の削減</li> <li>・適正な職員数の把握及び維持</li> <li>・市派遣職員の退職等に伴う財団職員への移行</li> </ul>						
	一 次 評 価	前年決算対比で、派遣職員の減等により人件費は減少したが、給食提供等に係る経費総額は、前年度と比して微増となった。しかしながら、児童・生徒数の増加による食数の増により、提供コストは減となっている。						
二 次 評 価	昨年よりもコスト減となり、より廉価で安全でおいしい給食の提供に努めていることを評価する。							
③	指 標 名	執行体制の簡素・効率化 (市派遣職員を財団固有職員への段階的な移行)			目 標 値	2人	実 績 値	3人
	過 去 の 実 績	平成24年度	平成25年度	平成26年度	達 成 率	150.0%	達 成 状 況	未実施・未達成・ <b>達成</b>
	(単位: 人)	2	3	2				
	取 組 内 容	定年退職、任用替えなどを期に段階的に市派遣職員数を削減し、財団固有職員へ移行している。経験を積んでいる市職の各施設の調理責任者、指導者(技能長・技能主任)の不足が生じたこととなったため、財団の昇任制度を制定して、固有職員の主任職登用を行っている。平成27年度、5名を技能主任に昇任させ、配置を行った。						
	一 次 評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・採用後4～5年を経過した固有職員を各施設の調理現場の責任者にしており、該当施設の状況を常に把握し、また技能主任としての業務能力の向上のための教育・指導が必要となる。</li> <li>・平成27年度末で市派遣の北町調理場の技能長が退職し、調理部門の係長がいなくなった。技術の継承、今後の調理部門のまとめ役である技能長の配置について検討が必要である。</li> </ul>						
二 次 評 価	財団の自立化を促進するためにも、サービス提供に支障ないよう計画的に財団固有職員への移行を行っていただきたい。							